

科目名称：	子どもの音楽表現演習Ⅳ		
担当者名：	上野 高裕		
区分	授業形態	単位数	
専門教育科目	演習	1	
授業の目的・テーマ			
<p>これまで積み上げた学びを更に確実なものとするため、課題は担当教員と相談しながら、各自の持つ演奏技術をもとに保育現場で活かせる曲目を自由に選択する。自ら、どのような曲を練習すべきかを考えることは音楽力をアップにもつながり、音楽が楽しいと思う気持ちを涵養する。そして、保育現場での子ども達との音楽あそび、音楽指導に繋がるよう、各自の得意曲として身につくようにしっかり練習に取り組む。</p>			
授業の達成目標・到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの方を見ながら語りかけるように歌ったり、弾いたりすることが出来る。 2. 子どもたちの歌を導いて、感性を持って、表情を豊かに表現することが出来る。 3. 様々なジャンルのピアノ独奏曲や保育の歌に挑戦し、これまで以上にレパートリーを広げる。 			

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		90		10	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
演奏技術	聴く者に感動をあたえる演奏で、曲の持つイメージが適切に表現され知識・技能を高めている。	概ねミス無く演奏している。曲のイメージが表現されている。	メロディー、リズムが正しく、概ね演奏している。	メロディー、リズムが間違えず何度も止まらないように努力を要する。
課題の進め方	意欲的、自発的である。	1回、1回を丁寧にこなしている	発表までに仕上げる。	課題に取り組む様に努力を要する。
受講態度	授業に向き合う姿勢が大変良く柔軟に対応する事が出来る	はっきりとした声で挨拶をし笑顔が良い。	挨拶はできるが、声が小さい。笑顔が良い。	挨拶ができ、態度やことば違いが出来る様に努力を要する。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間
第1回 担当教員に練習曲、練習計画についてアドバイスを受ける。	練習したい曲の楽譜を準備し、練習計画をたてる。	30分
第2回 学生の選択した課題を吟味して適正や難易度を見極め相談（ディスカッション）する。	自分の選択した曲を再度考慮し、アドバイスに沿って楽譜を精査する。基本的な練習に取り組む。	30分
第3回 取り組む楽曲と発表への方針を固め練習する。	楽曲確定のために基礎練習を試み、難易度と適正を自身で確認する。	30分
第4回 楽曲の課題	確定した楽曲の練習に取り組む。片手、ゆっくりと基本を大切に。	60分
第5回 楽曲の課題	確定した楽曲を可能な限り最終フレーズまでを目指し練習する。	60分
第6回 楽曲の課題	確定した楽曲を可能な限り最終フレーズまでを目指し練習する。	60分
第7回 楽曲課題の完成度を確認し、最終の発表会の演奏曲を決定する。	発表会の曲目練習。表現構成を考え、楽曲をチェックする。	60分
第8回 簡単にレッスン室でグループごとに演奏を確認しあう。各課題の完成度を見極め、発表会用に演奏の習熟度を高める。	取り組んだ楽曲のフレーズをチェックし表現できるよう習熟度を高める	60分
第9回 簡単にレッスン室でグループごとに演奏を確認しあう。各課題の完成度を見極め、発表会用に演奏の習熟度を高める。	取り組んだ楽曲の全般をチェックし表現できるよう習熟度を高める	60分
第10回 楽曲の仕上がりを確認し、最終の発表に向け方針を相談する。	発表曲の最終選定と練習	30分
第11回 発表会の楽曲課題	発表会の曲目練習。基本練習の繰り返しを行い、難しいフレーズをチェックする。	60分
第12回 発表会の楽曲課題	発表会の曲目練習。指導を受けたポイントの反復練習を中心に、正確な演奏を心掛ける	60分
第13回 課題の仕上がりの最終確認を行い、苦手な部分を知る。	発表会の曲目練習。演奏の習熟度を高め、表現力の上積みを図る。	90分
第14回 発表会(クラスを2グループに分け発表し一方は鑑賞する)	発表会の曲目練習。演奏の習熟度を高め、表現力の上積みを図る。習熟度を高め表現力の上積みを図る	90分
第15回 発表会(クラスを2グループに分け発表し一方は鑑賞する)	発表会の曲目練習。前週の内容や結果を参考に、自身の発表の習熟度を高める	90分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、ピアノ演奏技能の習熟には、限らない努力が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

前半後半2回の発表の状況で評価 前半習熟度45% 後半習熟度45%
授業への積極的関与10%

課題に対してのフィードバック

習熟度確認シートを使用し、学生の習得度をフィードバックしている。2回の発表形式型チェック後には、講評を行う。

教科書・参考書

学生各自が担当教員指導の下でそれぞれに楽譜を用意する。